

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

現代社会学部では、学部教務委員会および学部自己点検・評価委員会を設置している。

学部教務委員会は、両学科から5名ずつ合計10名の教授により構成され、学部長、副学部長、両学科主任を含む。学部自己点検・評価委員会は、両学科から合計7名の教授により構成され、学部長、副学部長、両学科主任を含む。

学部教務委員会では、学部全体の教学の企画立案や施策実施に当たるとともに、各学科から提案される事項を審議する。学部全体に関わる事項、学科から提案された事項は、学部教務委員会での審議を経て、教授会における審議事項・報告事項となる。

学部および学科において、以下のような形で教学マネジメントが実施される。

Plan:学部全体に関わる課題については、学部教務委員会において検討を行い、計画を立案する。また、各学科に関わる課題については、学科教務委員を中心に検討を行い、学科会議にて計画等を立案する。その後、学部教務委員会及び教授会における審議を経て決定する。

Do:教授会での決定事項に従い、学部ないし学科の各種委員会または教員において実施する。

See:学部自己点検・評価委員会にて年度毎に評価を実施し、顕在化した課題については、教授会を通じて学部教務委員会ないし各委員会、あるいは学科会議にフィードバックされる。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

① カリキュラムマップ

学科教務委員を中心に専門教育科目においては内容の確認を図っているが、共通教育科目については関係部局と十分な連携に基づく確認には至っていない。

また、カリキュラムマップでは、既存の専門教育科目においては内容の確認を行っているが、カリキュラム改編によって開講されなくなる科目や新設科目が出てくることが想定され、これらへの対応も今後の課題である。

② シラバス

学科教務委員によるシラバスの第三者チェックを実施し、シラバスに記載すべき事項を正確に学生へ提供するための体制が整っている。ただし、シラバスの質については十分な議論がなされているとは言い難く、例えば近年、記載事項が増加しているが、学生の履修においてどのような効果をもたらしたかについて検証及び検討が出来ていない（分量が多いために学生の利便性が低下していることへの危惧）。

② その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

履修要項のカリキュラム概要にて、専門教育科目の位置づけや教育分野が明示されているが、十分な周知には至っていない。したがって、履修ガイダンス等で周知を図り更なる環境改善を図る必要がある。また、成績表が学生にとって理解が困難であるとの声があり、これらの周知も今後の課題と考える。

今年度の取り組み

カリキュラムマップ、シラバス、ナンバリングが学生にとって十分な理解が可能となるよう、ガイダンス等でその利用方法等についての周知を図る。

上記の課題群は、いずれも昨年度に引き続いての課題であり、継続的に対応を検討する。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

教学 IR 情報や近年の成績分布情報などを共有し、卒業率や GPA だけでなく、科目の修得状況などの情報も学部・学科内で共有し、現在の科目レベル等が適切であるか学部として検証する必要がある。

今年度の取り組み

昨年度に引き続き、教学 IR 情報を共有するとともに、成績分布情報等を利用し、各科目の修得状況などを学部 FD にて共有し、現在の科目レベルの適切性についての理解を深める。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況について、まずは教学 IR 情報等を学部内で共有することから始め、学部の教学上の課題を明らかにする。

今年度の取り組み

FD 活動にて教学 IR 等の情報共有を図り、どのような課題があるか検討する。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
・社会学入門 A ・社会学入門 B ・演習 I ・演習 II ・プロジェクト演習 I ・プロジェクト演習 II	☐ 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック）
	☐ 学習成果実感調査
	☐ GPA
	☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート）
	☐
	☐
検証方法（卒業時）	
☐ GPA	

	☐ 卒業時調査（4 年次生調査）
	☐
	☐

取り組み内容（「8つの資質・能力」の達成方法など）

アセスメント科目についての教学情報を参考資料としつつ、授業目的等の達成状況および学生の資質・能力の修得状況等を確認し、カリキュラムの改善にどのように活かすことができるか検討する。

その他

※この内容は2024（令和6）年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学HPへの掲載を検討します。